

## 四谷の

# 千枚田だより



第 127 号

## 研修旅行

二月二十日、連谷明老クラブは懇親会を兼ねた研修旅行を「みかわ温泉く海遊亭」を会場に二十五名の参加をもって実施した。

研修の一環として丸山惇志会長は挨拶の中で老人会の現状について語った。話題に興味を抱いたことから概略紹介する。

現在、鳳来地区には二つの老人会組織がある。その一つ、布里地区においては一度解散し、再度、結成した会である。会の再結成については老連のお付き合いはしない。したがって運動会や各種活動等も参加しないことが条件となっている。

合併当初の鳳来地区には三十四の老人会(長寿会・明老クラブ等)が組織化されていたが現在活動を積極的に進めているのは連谷老人会のみである。

一つになった原因は何であったのだろうか? これは、何も鳳来地区だけが減った訳ではない。新市合併当初には新城市には百七の老人会が

あったが現在は五十余になつてしまった。特に新城市内の

入会が減少している。その原因は老人会という名前も悪く、勧誘しても「まだ、老人(年寄)じゃあない」な



どと断られてしまう。

連谷小学校も平成二十八年には統合する機運にあり寂しい限りである。今、連谷地区で最も盛り上がりつつあるのは「四谷の千枚田」である。千枚田を中核に地域ぐるみで頑張っていることは都市近郊住民、行政機関でも認められていることである。この、勢いづいている四谷の千枚田を地域の柱として支えてい

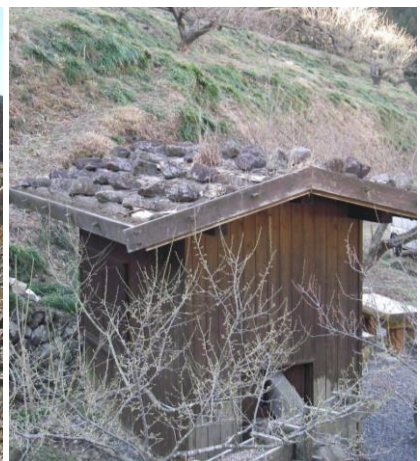
かなければならない。老人会も体は動かないにしても頭や知識では少しはお手伝いができることと思う、また、その気持ちを持ちたい。ま、兎にも角にも老人会を潰さないようにと、学校が無くなれば寂しくはなるが地区の皆さんで運動会が継続できるようにするためには老人会という組織もなければならぬと私は思う。頑張ります。老人会が頑張れば地域、団体ともども千枚田を支えて、力になっていけることと思えます。 まとめ(舜)

## 施設補修

二月二十二日、「ぼつとり」、「四阿」の屋根替えを今泉雅男、高橋孝行、(舜)の出演で行った。

平成十三年く十五年「ふるさと水と土ふれあい事業」で整備された施設も十年を越し、老朽化が著しい。

本年、昨年、一昨年と県、市の支援をいただき水車、四阿、ぼつとりなどの屋根の葺き替えが完了した。施設も千枚田の百姓と同様、毎年、年を食い、あちこちが傷んでくる。今、心配の種は安全のために設置された「手すり」がグラグラで安全対策が反って危険な状態にある。物見遊山の連中に怪我は自分持ちだぞんと論じてはいるが...



## 視察

三月三日、東海市向山実行組合一行二十名は愛知県との顔と評される四谷の千枚田の維持管理等と愛知県第一号の小水力発電施設の視察に訪れた。



一行を迎えた愛知県新城設楽農林水産事務所建設課宮林課長の「ふるさと水と土ふれあい事業」で実施した施設整備の説明。続いて小河路課長補佐から小水力発電施設についてパネルによる説明があった。現地視察では小山舜二から千枚田の維持管理の厳しさ、先祖から貴重な財産として受け継いだ棚田の保全継承、湧き水、天日干し、生きものと共生した体に優しいコメづくりの実践、千枚田を中核にした「むらづくり」等々の説明に視察者たちからは棚田を守り、耕す百姓の熱意と底力に敬意の眼差しをいただいた。

## 山の講

三月一日、千枚田の一集落「身平橋組」は恒例の山の講(山の神様の



祭り)が行われた。

山の神様は大山祇命・木花咲那姫命といわれ、かなりのやきもちやきでできない。また、この日は山仕事をすると山ノ神の怒りにふれ、怪我や不幸をもたらすと云われる。祭りは春と秋の二回催されるが、

これは、山の神様が春に里へ下りてきて田の神となり田んぼの水廻りをし、秋には豊作を見届けてお山へ帰ると言い伝わっている。

土人(土着の人)は大きな火を焚き、その「おきり」でおはたきを焼いて食べるのが習わしであり、飽食の時代には最高のご馳走でもある。おはたき(おきり)は重箱に米の粉を入れ水で練り、「おきり」でこんがりキツネ色に焼いたものを食べる。どうも、このつくり方はこの地方独特のようだ。

## 雪害

二月十四日、奥三河北東部に甚大な被害を至らしめた降雪は千枚田のふれあい広場を彩る桜の古木(昭和三十九年に(舜)が植えたもの)の枝、数本が雪の重みに耐えられなく折れてしまった。



危険を取り除くため三月四日、市鳳来総合支所地域整備課片桐副課長以下三名の職員と今泉雅男、(舜)で片づけた。

千枚田も観ては素晴らしいが次から次へと目に見えない出来事が起こる。気に病まにやあ、何ともないが、そうも言っとれん。

## 日本ミツバチ

最近、この地域でも日本ミツバチの飼育がブーム化している。愛好家は巣箱などを試行錯誤で試みているが成果は今ひとつのようである。何よりの証拠に蜂蜜が我が家に届かない。



## ヤマアカガエルの産卵

一月二十六日、三十日と二月の雨の早朝に産卵がみられた。初めの産卵した個体はオタマジャクシになり今朝も元気に泳いでいる。

行 平成二十六年三月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二